善光寺の御詠歌

大宮智栄台下　御作
松　濤　　基　作曲
♩= 50ぐらい
〔詠頭〕　ふみまよ-う　　ふみま-よう〔斉唱〕こころのや　みを　てらしませ　——
mp
mf
てらしませ　　わしのみや-まに　　わしのみや-まに
mp
mf
の　ー　ぼ　——　る　　つ　ー　き　　イ　ー
f
mf
Ped.

信濃の国　善光寺

ふみまよう　心のやみを　てらしませ　わしのみ山に　のぼるつきかげ

（大本山善光寺大本願第百十九世玉誉上人大宮智栄尼公大僧正御作）

鷲のみ山とはインドの靈鷲山のことで、お釈迦様がお念仏の教えを説かれたところです。このお歌では念仏の声するところは、どこでも仏様のお出ましをえて、お導きをいただく所という意味で、目前の山を靈鷲山に見立てておられます。

①《瞋り、貪り、愚痴の煩い悩みは、どうしても離れないのが人の本性。それゆえにこそ、捨てず導き護り向上せしめる、阿弥陀如来の慈光を仰ぐ心を詠まれました。》

②《大宮智栄尼公上人（1895～1984）は明治帝、大正帝の東宮侍従大宮以季子爵の次女として誕生し、明治30年（1897）12歳にて善光寺に入山得度し、自ら忍の生活を通されました。全国を巡錫し、積極的に人のため世のために生涯を捧げられました。》

・生涯を　弥陀につかえて　あたたかし（大宮智栄尼公上人作）
・法（のり）のふみ　ひもときしより　おろかなる　心のやみぞ　晴れわたりける（同）
・明らけく　世々にかがやく　名も高き　よしみつ寺の　法のともしび（同）

大意　闇路に迷う私を、あの山にのぼる月の光のように、如来様のお慈悲の光りで心の中まで明るく照らしお導き下さいませ。

ポイント注意

●女性的にやさしく唱えます。「わしのみやまに」はたたみかけるように繰返して、「のぼる」と力強く、その後はゆったりと静かに。